



かしっこだより

「Chance Challenge Change」

檜邑小学校 検索 ←

<https://www.city.maniwa.lg.jp/site/kashimura-es/>



真庭市立檜邑小学校

第15号

令和4年9月5日

校長 山本 信子 発行

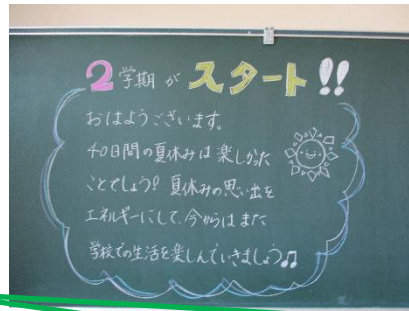
運動会の練習が 始まりました



9月18日(日)の本番に向けて、9月5日(月)より本格的に運動会の練習を始めました。全校表現や平成久世音頭の練習には、講師の方をお招きし、教えていただくことにもなっています。8名という少ない人数ですが、競い合ったり協力し合ったりしながら、仲間や先生と一つの行事を創りあげていく楽しさを味わうことのできる運動会になってほしいと願っています。1年生にとっては、小学校生活初めて、6年生にとっては小学校生活最後の運動会。そして、どの学年の児童も今の学年で行う運動会は、1回限りです。スローガン『元気いっぱい 心を一つに チャレンジしよう』を合言葉に、大人も子どもも一緒になって今年度の運動会を成功させるべく、頑張ります。体がかなり疲れると思いますので、お家では、話をたっぷり聞いて、しっかり休ませてあげてください。「ほけんだよりNo.6」にも親子で目を通してくださって、子どもたちが元気に運動会に臨めますよう、ご協力をお願いします。



先週の体育の時間には、リレーの練習を体育館で行いました。6年生が1年生にバトンの受け渡しのやり方を丁寧に優しく教えている場面を見ました。1年生も一生懸命聞いていました。何ともほほえましく、見ていて心がほっこりしました。そして、異学年と一緒に学ぶ良さを改めて感じました。



2学期スタートの日の様子です。低・中学年は、運動会の演技を決めるため、三輪車に乗っています。始めはこぎにくそうでしたが、すぐに上手になっていました。高学年は、夏休みの思い出や様子について、すごろく形式で、話しています。どの学年も良いスタートがきれました。長期休業後、特に痛感します。子どもたちの声と笑顔は、学校に必要不可欠なものだということを・・・。



第2学期 始業式で・・・

「40日間の夏休み、何かにチャレンジした人？」と尋ねると、さっと手が挙がりました。後で、聞いてみると、「今年の夏休みは、毎日1ページずつ頑張った。今までは、3ページやってやらない日があって、5ページやってやらない日があって、だったけど。」「飛び込んだことがない場所から飛び込んでみた。」等、チャレンジしたことを教えてくれました。このような話をしている表情は誇らしげで、確実にチェンジ（成長）していることを感じました。1学期の児童アンケートでは、「自分によいところがあると思う」「少し難しいことやちょっと頑張ればできそうなことにチャレンジしている」の項目は、4点中、2.9と3.1という控えめな結果でしたが、「とにかくやってみる」ことを繰り返す中で、きっとチェンジしていくのではないかと楽しみにしています。2学期も「3つのC（チャンス・チャレンジ・チェンジ）」を合言葉に、大人も子どもも一緒になって、「みんなが行きたいと思える檜邑小学校」にしていきましょう。

また、よりよい檜邑小学校をめざして、2つの提案をしました。①伝えるときは、相手にはっきり聞こえる声の大きさを意識しよう。②伝えてもらったら、反応しよう。教室にも掲示している「声のボリューム」を意識するために、実際に、声を出してみました。子どもたちは、大きな声（ボリューム5）を出しているつもりですが、運動場ではきっと聞こえない大きさのように思いました。相手意識をもって、自分の思いや考えを伝えることができるかっこをめざして、「声の大きさ」「反応」を気にかけていきます。

さらに、式後には、水泳学習を通して50メートルを泳ぐことができた6年生にバッチを渡しました。久世プール廃止により真庭支部水泳記録会がなくなったため、昨年度より真庭市および新庄村の6年生に完泳記念のバッジ（真庭支部小学校体育連盟企画）が贈られています。目標をもってチャレンジした結果です。おめでとう！1年生から5年生のお手本になる6年生。頼もしいです。

久世PTA連合会では、毎年のぼり旗を更新しています。今年度は、久世中が担当でした。テーマを「人権」とし、人権学習の一環として標語作りに取り組みされたそうです。役員による審査の結果、「『ありがとう』誰かの心に花が咲く」が選ばれ、のぼり旗として、本校にも届きました。校門近くのフェンスにたてています。この標語のように「ありがとう」の言葉が行き交い、久世地区、檜邑地区に、いっぱい花が咲きますように。

